

2025 ANNUAL REPORT

2025年4月－2026年3月



認定NPO法人
コミュニティ・サポートセンター神戸
(CS神戸)

2025年度を振り返って

CS神戸の設立のきっかけとなった阪神・淡路大震災から30年を迎えた2025年度は、これまで団体の中核を担ってきた中村順子理事長から、飛田敦子・星野裕志の2名の代表理事にバトンが渡る節目の年となりました。

新たな体制のもと、4か所の活動拠点と法人本部が連携し、地域人材の掘り起こしや地域課題解決型の団体の創出に取り組みました。事業面では、内閣府や休眠預金活用事業に採択され、国・県・市・区すべての行政レベルでの事業を実施。生活者のミクロな視点を大切にしつつ、マクロな政策レベルの事業も行うことで、中間支援としての視野を広げることができました。資金面では、多様な資金調達に注力しました。神戸市東部の10の居場所ネットワークによる「ごちゃまぜかふえ」事業で地元10社から協賛を得る仕組みを構築したほか、ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングでは「あすパーク」の運営資金として、多くの方からご寄付をいただきました。

2025年度は『自立と共生』のミッションのもと、新体制への移行という大きな節目を迎え、多くの方々と共に歩んだ一年となりました。皆様との多様な連携と温かいご支援を力に、『誰もに居場所と役割のある地域社会』の実現に向けた確かな一歩を刻むことができました。この一年の活動に関わり、支えてくださった全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

2025年度の実績と成果

実 績	
新規相談者数	952名
講座数	138本
受講者数	3,574名

成 果	
立ち上げ団体数	34団体
新規活動者数	507名

ミッション

「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、

自ら活動する人々を応援します

【特別座談会】 CS神戸のネクストステージ

阪神・淡路大震災以降、民設民営の中間支援組織として「自立と共生」を理念に掲げ、つながりあえる地域社会の構築に邁進してきたCS神戸。代表交代という大きな節目を迎え、新体制が目指す「これからの姿」について、代表理事の飛田敦子と星野裕志、前理事長であり現ファウンダーの中村順子の3名が語ります。

1. 今後の方向性

―「変えないミッション」と「変える仕組み」―

飛田 私たちの根幹であるミッション「自立と共生」は、これからも不変です。地域活動の人材育成や居場所支援など、CS神戸がこれまで大切にしてきた事業は、今後も活動の柱として実践していきます。

星野 一方で、仕事の進め方は時代に合わせてアップデートしていきます。具体的には、システム化の推進、広報力の強化、そしてスタッフの働く環境（処遇）の改善です。行政との対等なパートナーシップ構築や、事業ベースでの企業連携も加速させていきます。

中村 近年は内閣府や休眠預金事業など、国レベルのプロジェクトにも深く関わるようになりました。これまで蓄積してきたノウハウとネットワークを駆使し、資金・人材・組織化のすべてに応える「地域活動総合プラットフォーム」として、あらゆるレベルの地域活動を支える存在になることを期待しています。



2. 代表理事2名体制を選んだ理由

―組織の持続性と信頼の裏付け―

飛田 20代で入職し、地域活動支援という分野を20年間歩んできました。中村さんの情熱を間近で見てきたからこそ、これからの社会におけるNPOの必要性を痛感しています。10年ぐらい前から外堀が徐々に埋まってくるのは感じていましたが(笑)、この仕事が本当に大好きですし、震災30年という節目に、バトンをしっかりと受け継ごうと決めました。

星野 中村さんの立ち上げられた震災ボランティア活動に参加して以来、立ち上げから30年間、トータルアドバイザーや副理事長という肩書でCS神戸の運営に携わってきました。「コミュニティ・サポートセンター神戸」の名付け親でもあります。多くのNPOが直面する「カリスマリーダーからの事業承継」という難題に対し、私たちは2名体制で挑みます。役割を分担し、専門性を生かすことで、より広範で複雑化する地域課題に対応できる体制を整えました。

中村 地域課題が多様化する今、一人のリーダーがすべてを網羅し、引っ張っていく時代ではなくなってきました。30年来のパートナーである星野さんと、20年来の実務を支えてきた飛田さん。この「時間の厚み」と信頼関係があるからこそ、この2名体制がベストだと理事会で判断しました。

3. ファウンダーの役割

―理念の体現とバックアップ―

星野 今回、新たに「ファウンダー（創設者）」という役職を設けました。中村さんはCS神戸の理念そのものを体現する存在であり、中村さんの創られたモデルと使命を受け継ぐという意味からの名称です。

飛田 中村さんの人脈と経験は組織にとってかけがえのない財産です。2026年度は継続事業が多いため、実務面でも「エグゼクティブ・アドバイザー」として支えていただきます。後進の育成についても、引き続き力を貸していただきたいと思います。

中村 立場は変わりますが、私の想いは変わりません。ただ、現場ではあくまで「バックアップ」に徹します。頼られすぎると、つつい口も手も出してしまうから(笑)。新しいCS神戸の次のステージを楽しみに、一步引いたところで見守りたいと思います。



トピックス 1

気軽につながれる拠点がポイント

都市型多層ごちゃまぜプラットフォーム(PF)調査事業 (内閣府委託事業)

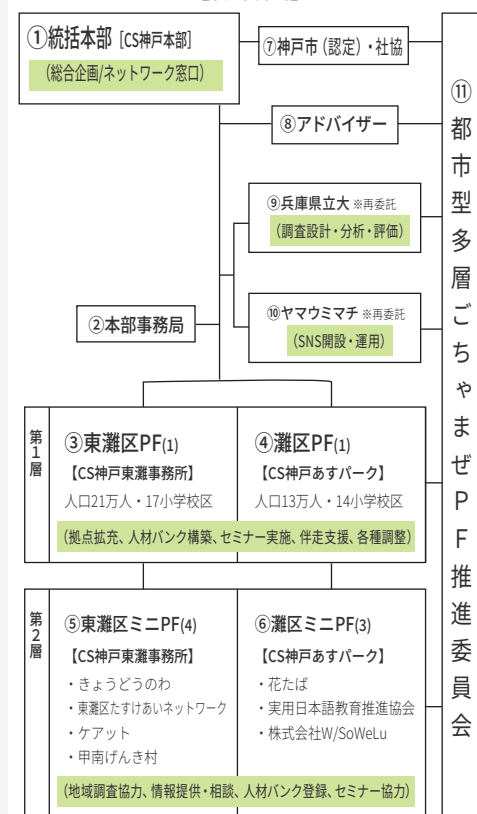
内閣府の「多世代参画による地域活力プラットフォーム調査事業」に採択され、神戸市東部（東灘区・灘区）を対象に調査を実施しました。高齢者支援や多文化共生などの都市部課題に対し、多世代が参画する仕組みである「多層型プラットフォーム」を構築。居場所との連携やマッチングを通じ、多様な住民が地域活動へ参加しやすい環境づくりに努めました。

交流会やセミナーには、IT人材、若者、シニアなど多様な属性の延べ257名が参加。ごちゃまぜボランティアバンク（Vバンク）を整備し、こども食堂、日本語学習支援など多様な活動に197名をマッチングしました。行政や社協との連携による推進体制の構築に高い期待が寄せられる一方、継続的な活動参加を促す仕組みやデジタル広報の充実が今後の課題です。本事業を通じ、多様な主体が緩やかにつながる拠点の整備やコーディネート機能の重要性が明らかになりました。

【実績一覧】

事業種別	項目	実施主体	実績
1.拠点形成	・区PFとミニPFにおける機能拡充 (情報提供・相談・交流・マッチング促進等)	区PF/ミニPF	拠点形成および拡充9か所
2.事前調査	・ボランティアに関する意識調査 (参加動機および継続要因の調査・分析)	区PF/ミニPF	回収152通
3.セミナー	・3種のセミナーを通じた地域活動との接点づくり (サロン・フェスタ/ミニセミナー/連続セミナー)	区PF/ミニPF	実施21回 参加者257名
4.マッチング	・「Vバンク」の仕組の構築・運用 (個人登録の促進、人材募集案件の開拓・調整、マッチングまでのコーディネート、立ち上げに向けた伴走支援)	区PF/ミニPF	登録297名 募集案件72件 マッチング197件 立ち上げ1団体
5.組織間連携	・神戸市、市・区社協、大学・学校等との連携	区PF	広報ベースの連携3団体 事業ベースの連携4団体
6.広報	・ミニPFや公共施設でのアナログ広報 ・HPやSNSを活用したデジタル広報	区PF/ミニPF /アマウミマチ	広報拠点12カ所 デジタル広報170回
7.分析調査	・マッチング成立者13名のストーリー調査 ・ミニPFへのアンケートおよびヒアリング調査	区PF	追跡調査13名 フィードバック7団体
8.推進委員会	・推進委員会（関係者全員での情報および課題共有） ・アドバイザー会議（アドバイザー3名による事業チェック） ・事務局会議（Vバンクに関するオペレーションの調整）	区PF	事業会議29回

【体制図】



ボランティア紹介サロン



セミナー修了生が立ち上げた世界とつながるカフェ

トピックス ②

企業と地域が共に支え合う

居場所立ち上げ・運営支援事業

(近畿ろうきん助成、ひょうごボランタリープラザ助成)

2025年度は地元企業10社の協賛を得て、10拠点の居場所を応援する「ごちゃまぜかふえ」を本格始動しました。大学等との共同調査で企業協働のポイントを探り、8月のトワイライト交流会（57名参加）や2月の居場所サミットin神戸（70名参加）を通じてネットワークを強化。ICT面ではICT推進協議会がAI交流アプリ3種を開発し、居場所に中古PC12台の寄贈も実現しました。一連の活動を通じ、地域で「ツナガル」重要性やリソース不足の課題が明確になりました。居場所は即効性ではなく、時間をかけて心身に効いてくる「こころのラジオ体操」や「地域の漢方薬」のような存在です。今後も活動の「見える化」を推進し、企業と地域が共に支え合う持続可能な仕組みづくりを継続してまいります。



居場所×企業 ごちゃまぜカフェトワイライト交流会

トピックス ③

震災の記憶を次代へ繋ぐ

震災30年特別企画

(自主事業／ひょうご安全の日助成を一部充当)

あすパ・ユース震災語り部隊の協力を得て、全国から集まった42名の若者を対象に特別合宿「多様な人と学ぶ神戸の災害文化」を実施しました。NPO法人多言語センターFACIL、あすパ・ユース震災語り部隊の協力を得て、2日間の交流を通じ、「平時のつながりが最大の防災」という重要な学びを得ました。1日目はCODE海外災害援助市民センターが、阪神淡路大震災の教訓を生かし世界各地で行っている災害救援活動の紹介するとともに参加8校より「阪神淡路大震災の学びが自分たちのまちでどう活かされているか」を発表しました。2日目はあすパ・ユース震災語り部隊による成徳地区での語り部を聞き、地域のつながりの重要性を実感しました。また、新長田では外国人視点の震災経験から、緊急時のマイノリティ支援の必要性も学びました。さらに、別企画として灘中学校有志の3年生23名がCS神戸の約30年の歩みを8枚のパネルにまとめました。彼らが印象に残った写真を選び、自分たちの言葉でエピソードを書きデザインを担いました。パネルはCS神戸本部事務所の入り口に掲示し、CS神戸の成り立ちを初めて聞くゲストからも好評を得ています。



特別合宿「多様な人と学ぶ神戸の災害文化」



CS神戸30年の歴史パネル

トピックス 4

地域を支える支援者向け研修

70歳代シニアを応援する地域プロデューサー養成講座

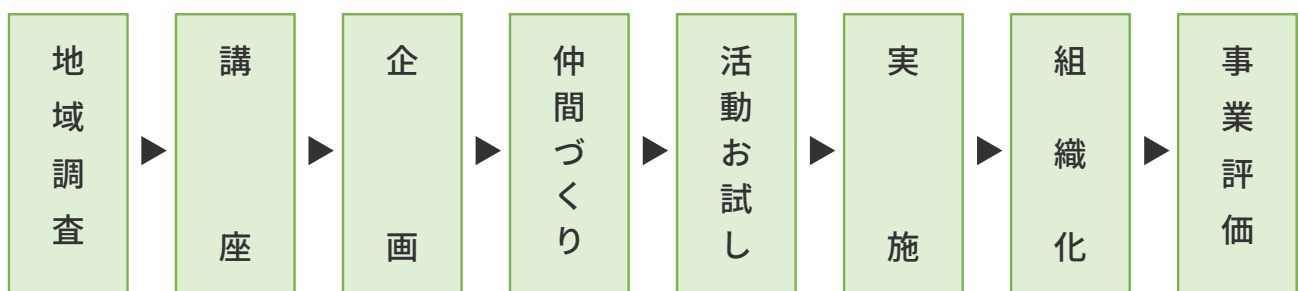
(さわやか福祉財団助成事業)

元気な高齢者の多くが地域活動に未参画である現状を受け、彼らを「社会資源」として捉え、その活躍の場を創造し支える人材（地域プロデューサー）を養成することを目的に、「70歳代シニアを応援する地域プロデューサー講座」を企画・実施しました。さわやか福祉財団や定年後研究所より講師を迎え、CS神戸の団体立ち上げのノウハウをプログラムした研修内容としました。自治体、企業、NPO等から8団体が参加し、全3日間の研修では、実際の支援現場の事例をもとに議論する「ケース・メソッド」を導入しました。多様な背景を持つ受講者による対話を通じて、マインドセットの転換や具体的な支援手法への理解を深めました。市民主体の地域づくりにおいてシニアを活動へとつなぐ中間人材の重要性が再確認され、地域課題の把握から事業化、団体創出、運営支援までを総合的に担う「地域プロデューサー」の有用性と役割について学びました。自主事業化には更なる工夫が必要なため、対象者や研修内容についての議論を深め、実践に結び付けていきます。



70歳代シニアを応援する地域プロデューサー講座の様子

CS神戸のグループ創出の流れ



トピックス 5

地域に広げる子どもの居場所

生駒市こども食堂づくり実践講座

(生駒市委託事業)

奈良県内の他市と比較して、こども食堂の数が少ないという生駒市からの委託で、「こども食堂づくり実践講座」の企画運営を担いました。定員12名のところ、40名を超える応募があり、関心の高さがうかがえました。生駒市で交流拠点を運営している一般社団法人無限の協力も得て、講座編5回・フォローアップ編3回のプログラムとし、こども食堂が少なかった生駒市北エリアでの立ち上げを目指しました。講座編では、生駒市の現状、事例紹介を経て、実際にこども食堂を運営するためのトライアルを実施、役割分担、食材の準備や調理、収支の立て方など、こども食堂を運営するためのPDCAを一通り体験してもらいました。また、フォローアップ編では、会則づくり、事業計画、助成金申請、チームビルディングなどをより実践的にすすめ、最終的に2つのこども食堂が立ち上がりました。



こども食堂トライアルの様子

プロジェクト報告

地域間交流を通じた起業を伴走

地域しごとサポートセンター神戸事業(ワラビー) (兵庫県補助事業)

県内の他センターと連携し、地域間交流を目的とした「兵庫ふるさとトリップ研究会」を組成し、ツアー等を通じて起業支援や関係性構築を行いました。今後は交流事業と起業・しごと創出支援の枠組み構築が課題です。シニア向けのチームジョブ支援では、ポスティングやこども園周辺業務のチーム立ち上げをサポートしました。また、就業相談では480人中60人が就職し、起業相談では地域活性化や部活の地域移行などを中心に27団体が立ち上がりました。神戸市NPO設立運営相談窓口事業では、275件の相談に対応し、8団体の設立を支援しました。NPOの作り方講座では、アンケートから高い満足度の評価を得ました。



兵庫ふるさとトリップツアーin後川 農業体験
(写真提供:北摂丹波アップストリーム農泊協議会)

身近な区単位で実践的に学ぶ地域活動

灘区地域活動人材育成事業 (灘区委託事業)

灘区の地域人材育成事業2期目として「なだ実践ゼミ」を企画運営しました。地域課題に取り組む新たなグループ創出を目的に、視察先の拡充やフォローアップコースを併設し、1期生と2期生の交流によるシナジーを生み出しました。講座では灘区における重点課題をもとにしたテーマで全10回の実践的なカリキュラムを実施。地域課題の把握→現場体験→グループづくり→トライアル→資金・組織運営を学ぶ機会としました。「多世代交流での地域交流センターの活性化」、「多文化共生」「防災食づくりで防災・環境整備」の3つのグループが立ち上げ準備に入り、今後ゆるやかなペースで活動を進める予定です。



防災食づくりトライアルの様子

「アート」を通じた学びと交流の場

生きがい活動ステーション運営事業 (神戸市民文化振興財団委託事業)

2025年度も「文化・アート」にまつわる多彩な「生き活1day講座」や「大人の部活」を実施し、地域の学びと交流の場を提供しました。来所・訪問者は8,267名(昨年度比105%)。6つの「大人の部活」から4グループ(やさしいお絵描き同好会/倶楽部ちくちく/なだっこバールン/六甲道落語倶楽部)が結成され、他3つも立ち上げを支援中です。落語部の卒業公演を機に灘区文化センターで「ランチタイムロビーパフォーマンス」を開始し、身近に音楽やアートを楽しむ機会を創出。ワラビーと連携したボランティア紹介も好評で、「ここに来ると何かに出会える」と好評を得ています。



1day講座 お金のはじまり～見て、触れて、学ぼう!

6周年、交流の輪が広がる多世代拠点

地域共生拠点・あすパーク運営事業 (自主事業)

あすパークは開設6年目、年間訪問者7,200人、28団体が定期利用しています。多世代交流・つながりづくりの拠点と課題解決型団体の創出を目標に、今年度は、成徳マルシェ出店など自治会やこどもの居場所との協業で近隣地域の交流機会の拡大や、なだ実践ゼミ修了生の2団体（防災活動の「Team居団居場所」や子ども主体の「こども企画舎」）の立ち上げを支援しました。さらに神戸市ふるさと納税型クラウドファンディングで約80万円の寄付をいただき、施設運営や新企画に活用予定です。また、利用団体を対象に実施したヒアリング結果を踏まえ、課題となっている団体間のつながり・交流不足を解消するため、今後は団体間交流の促進にも力を入れていきます。



防菜プロジェクトによる菜園用木箱づくり

シニアの活力をしごとに活かす

兵庫型シニアショートワーク事業 (兵庫県雇用開発協会委託事業)

企業の定年延長が進み、地域活動の中心層が70～80歳代となる一方、就業意欲の高いシニアを受け止める企業の体制は十分ではありません。高齢者が地元に必要な仕事を自ら生み出し、最低賃金を適用する仕組みの導入が重要です。6年目の今年度も「しごとの切り出し」と「創り出し」を重点に活動し、介護・ビル管理・清掃に加え、日本語講師や冠婚葬祭事務の求人獲得にも注力しました。結果、事務系求人94件を確保し、高齢者の事務職開拓に寄与しました。また「協同労働ミニワーカーズ実践塾2025」を開催し、「そば処淡竹」が労働者協同組合として再始動。これまでの実践塾を通じて労働者協同組合5法人、ミニワーカーズ1団体が誕生しました。また「第4回協同労働セミナー」には73名が参加し、協同労働の可能性を共有する場となりました。



第4回協同労働セミナー

商業施設で地域活動をつなぐハブ拠点

まちづくりスポット神戸管理運営事業

(大和リース株式会社との協働事業・自主事業)

2025年度、まちづくりスポット神戸は多くの方に支えられ12周年を迎えました。SNS発信やニュースレター再開など広報強化に取り組んだ一年となりました。参加者は2023年度、2024年度の水準には届かず、コミュニティルームのイベント参加者も昨年度の約10%減少しましたが、原因は主催者の活動休止や子育て支援団体の集客減とわかり、既存団体の応援に加え新規団体の開拓を進めました。12団体が新たに登録し、イベントも17件増加しました。今後は広報に加え、会員間の交流やコラボ支援を強化し、活動の発展を伴走します。また、「みんなのフェスティバル」と防災イベント「みんなで“まなぼうさい”」のいずれも約1,400人が参加し、大いに盛り上がりました。

予約図書受取コーナーは7年目。来館者は約100名/日で、市内17か所で2番目の取扱数を維持しています。図書カウンター前のスペース（らぼ）を市民ギャラリーとしてご利用頂けるようにしました。まちづくりスポット神戸の年間利用者数は、図書も含めて27,503名でした。



みんなのフェスティバル

駐輪場から広がる社会貢献

JR住吉駅前自転車駐輪場 (神戸市指定管理事業)

市が招集する「駐輪場のあり方検討会」にオブザーバー参加し、自動化や省人化が議題となる中、まちづくりへのソフト面の貢献を提言しました。スタッフによる業務改善提案は52件で前年より18.6%増。提案から労災防止に取り組み、自主監査で危険箇所(12件)を改善し、危険予知訓練や健康体操講座も実施。ICT研修で業務改善も進めました。地域貢献では中学生のトライやるウィークの受入れや、駅前清掃を実施。清掃は累計538名が参加し前年度より16%増。障がい者事業所と連携した作品展示会も好評でした。見守り活動や花壇づくりを継続し、駐輪場管理責任者連絡会議で情報共有も行いました。駅前防災情報拠点づくりの活動は、次年度に引き継ぐ課題として残しました。



駅前ミニギャラリー「みんなの作品展示会」

地域団体への伴走支援

休眠預金活用事業 見えにくい社会課題を解決するコミュニティ創出と組織基盤強化支援 (JANPIA助成事業)

一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)の休眠預金活用事業で、全国4団体の一つとして活動支援団体に初採択されました。2025~2028年度に、こども・若者、地域コミュニティ、外国人支援分野の団体へ伴走支援を行い、組織基盤強化を目指します。今年度は支援対象団体募集を進め、7団体を訪問し説明、オンライン説明会には8団体が参加しました。休眠預金を機に団体を訪問し意見交換したことで、中間支援に求められる役割を改めて考える貴重な機会となりました。事業は2026年度より本格始動します。

客観的調査で介護の質と意欲向上をはかる

介護サービス情報の外部評価・公表調査 (自主事業、兵庫県指定事業)

2011年度より15年間にわたり実施した「地域密着型サービス第三者評価事業(介護サービス情報の外部評価・公表調査)」は、2025年度をもちまして終了いたしました。

応援資金のご報告

小さな活動を資金で支える

市民活動サポート基金・自販機応援金・まちすぽ基金

運営支援の一環として、エリア・対象別に下記3種類の小規模な助成金プログラムを実施しています。団体立ち上げの際にアクセルの役割を果たす初めの一歩助成や、既に活動実績のある団体が次のステージに挑戦する際に背中を押す運営支援助成があります。今年度は15団体に合計955,000円の助成をし、各団体にとって重要なステージを応援することができました。



自由演劇倶楽部えん 豊岡での公演会

プログラム名	主な財源	運営主体	対象エリア	助成対象団体
①市民活動サポート基金	市民活動サポート基金 賛助会費	CS神戸	神戸市東部~阪神間	・運営支援をしている団体 ・CS神戸の講座から立ち上がった団体等
②コースマーケティング応援金	寄付型自動販売機設置 企業からのご寄付	コースマーケティング 研究会(事務局CS神戸)	神戸市~阪神間	【A】小規模団体 【B】常設居場所
③まちスポ基金	大和リース(株)様からのご寄付	CS神戸	神戸市西部	まちづくりスポット神戸 登録団体等

2025年度決算報告

※詳細版はCS神戸のHPに掲載しています

貸借対照表

資産の部		負債の部	
1.流動資産	64,455,308	1.流動負債	19,489,544
(1)現金・預金	48,938,994		
(2)その他流動資産	15,516,314	負債合計	19,489,544
2.固定資産	34,316,479	正味財産の部	
(1)有形固定資産	17,348,645	前期繰越正味財産	79,158,790
(2)無形固定資産	275,960	当期正味財産増減	123,453
(3)投資その他の資産	16,691,874	正味財産合計	79,282,243
資産合計	98,771,787	負債及び正味財産合計	98,771,787

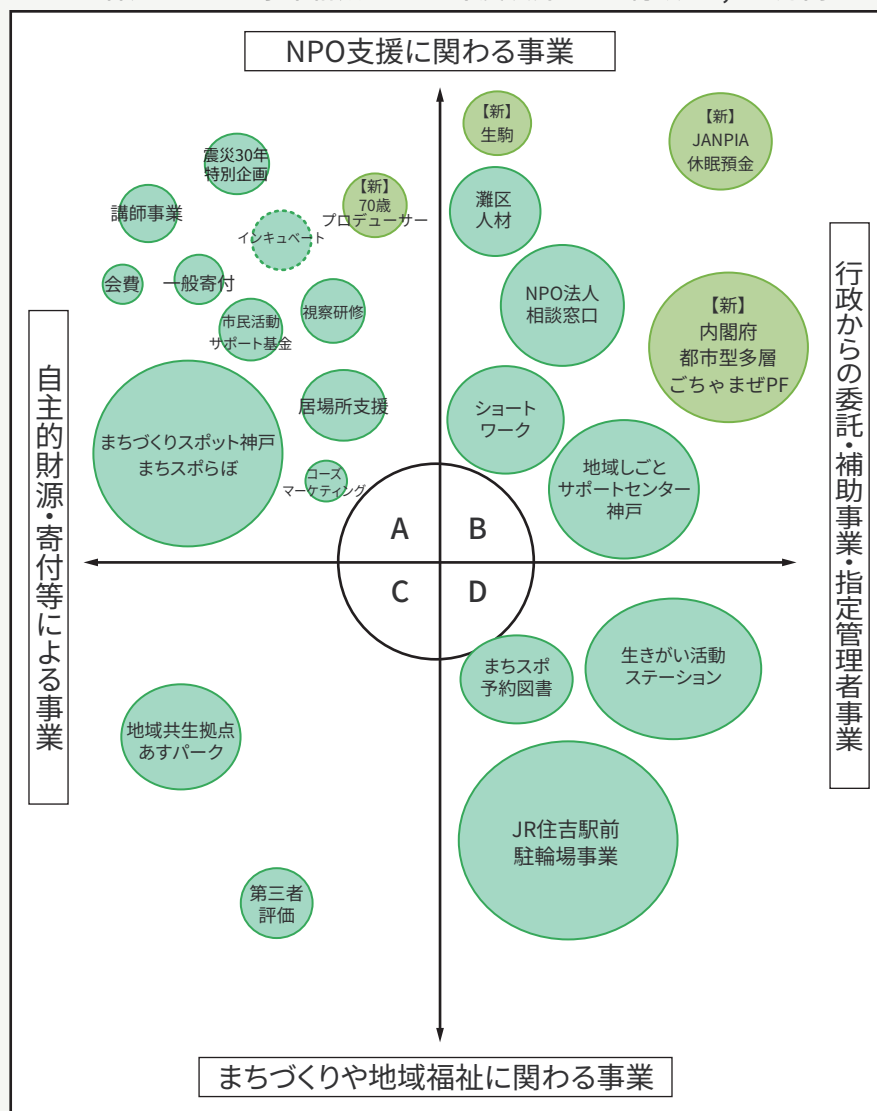
活動計算書

科目	金額	科目	金額
I. 経常収益		II. 経常費用	
1. 受取会費	597,000	1. 事業費	65,512,645
2. 受取寄付金	13,142,979	2. 管理費	13,375,348
3. 受取助成金等	10,373,455	経常費用計	78,887,993
4. 事業収入	54,470,525	当期正味財産増減額	123,453
5. その他収益	427,487	前期繰越正味財産額	79,158,790
経常収益計	79,011,446	次期繰越正味財産額	79,282,243

2025年度ポートフォリオ

CS神戸における事業構成 2025年度決算

総額：7,900万円



2026年度に向けて

2026年度は、CS神戸が培ってきた「グループを育て、地域の担い手を輩出する支援」を、次のステージへ発展させる一年と位置づけています。年間約140本実施している各種研修事業をCS神戸独自の支援プログラムとして体系化・事業化するとともに、「地域活動総合プラットフォーム」として、既存事業である居場所支援や新規事業である休眠預金活動支援事業等に取り組みます。また、「ミニワーカーズ」の普及、2年目となる内閣府都市型多層ごちゃまぜプラットフォーム事業の拡充、4つの交流拠点での実践を通じて、市民が主体となる地域活動を広げていきます。

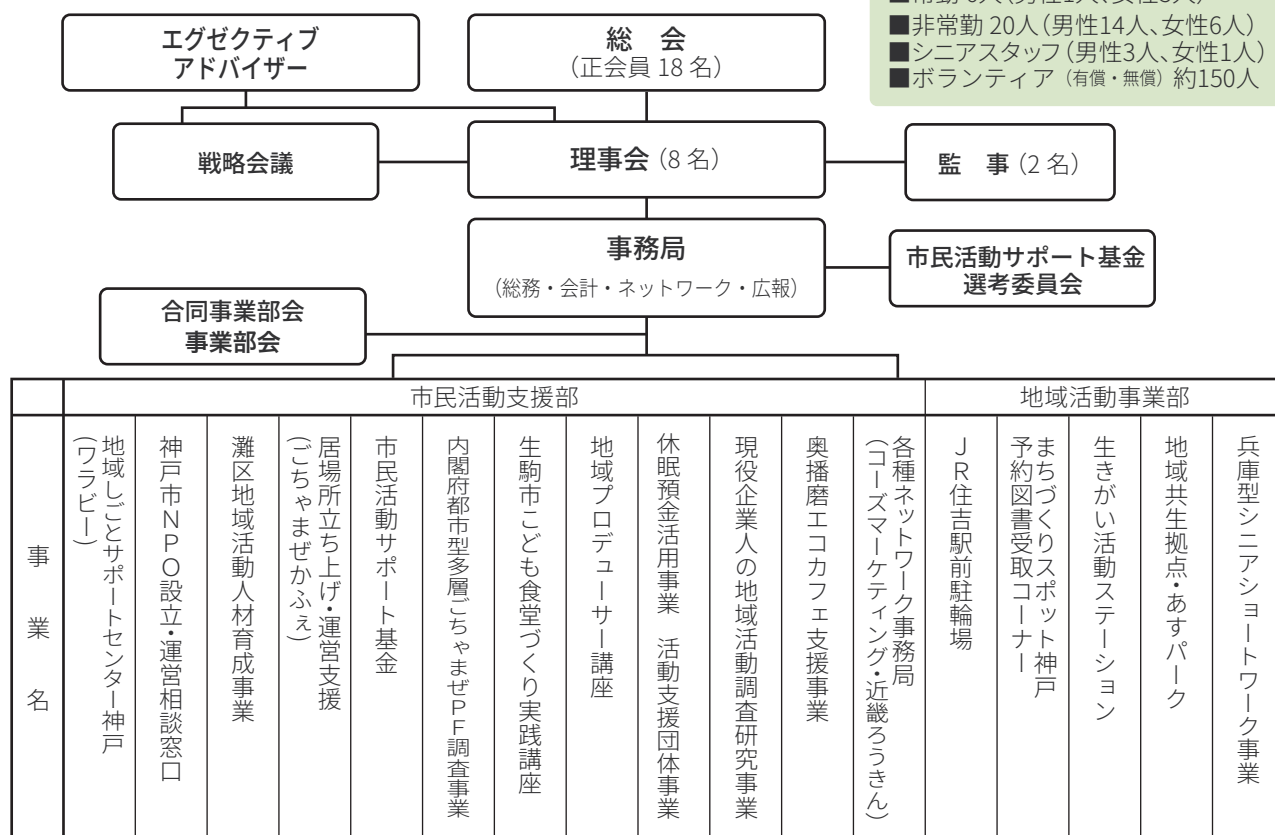
さらに、企業との連携や外部資金の獲得による財源の多様化、新たな組織体制の定着を進め、一人ひとりの力と組織の総合力を高めながら、「誰にも居場所と役割がある地域社会」の実現に向け、チャレンジを続けてまいります。

2026年度組織図

※2026年6月1日現在

< スタッフ構成 > ※常勤は週4以上

- 常勤 6人(男性1人、女性5人)
- 非常勤 20人(男性14人、女性6人)
- シニアスタッフ(男性3人、女性1人)
- ボランティア(有償・無償) 約150人



事業所マップ



役 員

代表理事	星野 裕志	中村学園大学 特任教授／九州大学 名誉教授
代表理事	飛田 敦子	コミュニティ・サポートセンター神戸 代表理事
副代表理事	佐藤 友美子	学校法人追手門学院 理事
理 事	尾花 弘教	株式会社ウェルアップ代表取締役
	小室 邦夫	ヒューマンスキル研究所 主宰
	當間 克雄	兵庫県立大学大学院社会科学部 教授
	佐合 純	iC 株式会社 代表取締役
	山村 弘美	コミュニティ・サポートセンター神戸 事務局長
監 事	井上 隆文	元・神戸市職員
	奥村 一人	コンサルティングオフィスK 代表
ファウンダー	中村 順子	コミュニティ・サポートセンター神戸 前理事長

ご 支 援 あ り が と う ご ざ い ま し た ！

会員一覧

(順不同・敬称略) ※2025年4月～2026年3月

正会員 (20名)	足立 勝 長谷川 京子 上田 理恵子	岡本 仁宏 飛田 敦子 佐合 純	佐藤 友美子 藤原 和男	小室 邦夫 井上 隆文	坂本 登 松下 忠義	中村 順子 朴木 佳緒留	星野 裕志 池田 拓也	當間 克雄 尾花 弘教	川島 龍一 奥村 一人
賛助会員 個人(89名)	内田 満夫 飛田 雄一 今別府 宏 新福 たか子 池田 康二 朝倉 有子 白井 一彦 桑山 信子 奥野 晋一郎 大谷 敏行	金川 宏 大和 三重 井上 怜 大西 佐知子 高橋 貴之 松本 吉一 松元 隆平 増金 祐次 伴 和史 村上 義弘	朝山 日出夫 古結 洋子 平田 富士男 泉 勇策 一瀬 敏弘 山本 好克 氏家 都子 大黒 洋一 森 功 荻野 俊子	日下 恵子 高橋 弘幸 梶原 靖子 西池 陽一 川瀬 明彦 與口 修 丸本 恭子 浜田 宏樹 上野 恭男 川島 悦子	栗野 真造 西田 滋 落合 弘 田村 敏行 小林 義徳 松元 庸子 西田 幸夫 東郷 寛 蒲田 尚史 菅 祥明	長澤 マリ 端 信行 守永 浩一 加藤 正博 大野 利恵 四宮 一夫 細見 典子 植戸 貴子 前田 優子 津田 久雄	吉川 忠寛 尾山 宗久 山村 弘美 佐野 正明 藤本 傑士 直田 春夫 宮崎 太喜夫 山内 延浩 川島 かおり 尼川 洋子	狩野 仁未 朴 徹雄 子川 幹男 吉本 隆光 岡田 雅幸 上田 正也 堂馬 英二 長田 幸一郎 森本 泰司 福地 啓子	新庄 達也 藤本 隆 林 祐介 林 律子 稲田 薫 小川 大和 小林 清隆 井筒 眞弓 大久保 和雄
賛助会員 団体(13団体)	NPO法人ジンジャークラブ 宗教法人満福寺 株式会社まんぼう		株式会社神戸サンソ うたごえ広場ひだまり 有限会社神輝興産		NPO法人ホザナ・ハウス 東灘こどもカフェ 株式会社ロック・フィールド		自由演劇倶楽部”えん” ヒューマンスキル研究所		NPO法人福祉ネットワーク西須磨だんらん 特定非営利活動法人 薫風
寄付者一覧 個人(27名)	栗野 真造 川島 龍一 林 光彦	蒲田 尚史 増金 祐次 與口 修	吉川 忠寛 池田 拓也 高橋 貴之	佐藤 博史 中島 玄 上畑 みのり	佐野 正明 藤井 芳典 中村 順子	若林 利光 堂内 克孝 飛田 敦子	守永 浩一 飛田 雄一 山村 弘美	小林 清隆 尾花 弘教 小室 邦夫	菅 祥明 尾山 宗久 市村 尚子
個人 (あすパーククラウド ファンディング) (41名)	齋藤 光國 平田 直美 今井 亜都子 菅 祥明 佐野 正明	川中 大輔 太田 豊湖 小川 大和 星野 裕志 家口 浩	須田 和 苔山 航佑 友田 景 尾花 弘教 黒木 正樹	佐藤 博史 高橋 貴之 倉林 伸明 飛田 敦子 竹田 昌弘	中山 寿子 永野 純一郎 武内 伸雄 川田 照義 藤井 芳典	小林 清隆 長沼 隆之 佐藤 友美子 山村 弘美	朴 徹雄 飯島 園子 岩田 尚登 清田 仁之	中本 宏 竹谷 昭宏 松村 史邦 宮田 直子	中村 順子 飛田 雄一 守永 浩一 金川 宏
団体 (19団体)	大和リース株式会社 明治安田生命保険相互会社 コスモスラボ 日清オフィスサービス株式会社		有限会社 神輝興産 住吉台テラスハウス 特定非営利活動法人じゅら 地域ICT推進協議会(COPLI)		株式会社シカタ 株式会社神戸マツダ 司法書士・行政書士橋本法律事務所 株式会社宮内不動産		商船港運株式会社 すずカフェ倶楽部 株式会社神戸介護ケアウィング 兵庫ダイハツ販売株式会社		株式会社さんふらわあマリンサービス 大輝株式会社 神戸化成株式会社

ご寄附・賛助会員へのご加入について

みなさまのご支援が、地域で活動する人達の力になります！

CS神戸の活動を応援いただける方は、ぜひ賛助会員へのご加入、またはご寄附をお願いいたします。

賛助会員(個人会員3,000円/年、団体会員10,000円/年)

会費・ご寄附は税制控除の対象になります。ぜひお力添え下さい。

① **オンライン決済** 右のQRコード、もしくはCS神戸HP(トップページ上部)のオレンジ色のボタンよりお手続きいただけます。



賛助会員費支払い用



寄付金支払い用

② **ゆうちょ銀行振込** 口座番号：00950-2-144205
口座名義：特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸

③ **銀行振込** 銀行名：三井住友銀行 支店名：住吉支店
口座種別：普通 口座番号：3653476
口座名義：特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104

TEL.078-841-0310 FAX.078-841-0312

E-mail: office@cskobe.com URL: https://www.cskobe.com



ホームページ



Instagram



FaceBook